

自分流で目指した宇宙

平成 26 年 3 月 電気電子工学科卒業
宇宙航空研究開発機構(JAXA) 杉菌光太郎

皆様こんにちは。私は現在、種子島宇宙センターでロケットの打上げに使用する施設・設備の保全や開発の仕事をしています。昨年度の H2A・31、33 号機、イプシロンロケット 2 号機の打上げでは、指令管制棟と国内外のロケット追尾局を結ぶ通信設備の運用を行い、H2A・32 号機では飛行安全管制担当として、ロケットの飛行経路やエンジンの燃焼状況を監視する業務に従事しました。

JAXA で働いていると、「大学では宇宙関係の勉強をされていたんですか？やっぱり東大卒なんですか？」と、よく聞かれます。実際のところ JAXA 職員が皆、東大の宇宙工学出身という訳ではありません。学生時代に電気電子、機械、情報などを専攻していた方々もいれば、建築士、気象予報士、司法試験合格者やお医者さんなどもあります。

私が専攻していた電気電子系で、宇宙業界を目指す学生は極少数です。しかし、ロケットや衛星にも電源や配線はあります。通信機器もあります。電子部品も数えきれないほど搭載されています。宇宙ステーションや地上設備の電気系統を研究開発する人も必要です。少し想像すれば、宇宙業界においても活躍の場がいくらでもあると分かります。

電気電子に限った話ではありません。大型試験設備や、ロケットの発射台の開発には建築の知識が必要です。衛星に使用する材料の研究をしている化学系の方もいます。宇宙飛行士の体調管理や訓練内容を研究する生体・医学系の方もいます。また、大卒や修士・博士だけでなく、年齢が若くフットワークが軽い高専卒も重要な存在で、試験設備の保全から衛星の運用といった現場よりな仕事をメインに、JAXA で活躍されている方は大勢います。

宇宙関係に就職するためには宇宙工学を専攻する。というのが普通の考え方だと思います。しかし、将来的には電気電子系の方が研究の余地が広いのでは？という思いがあり、私はあえて、電気電子という道を選びました。正直、需要の割に供給(希望する学生)が少ないから JAXA に入りやすそうだな、という考えもありました。それも一つの戦略だと私は思います。また、工学部では大学院修士課程への進学が一般的ですが、私は研究だけでなく現場を深く知れる保全や運用業務も経験したいと考えていたため、大学院へ進学せず学部卒で就職しました。私はあくまで自分流で宇宙を目指したわけです。

自分の専門はこれだからこの業界に就職する、と決めつける必要はありません。皆が大学院に行くから自分も

行かなきゃ！と流される必要もありません。あくまで、自分流でいいのです。

高専入学式の日、クラスの自己紹介で「僕は将来 JAXA 職員になって宇宙開発に携わりたいです！」と宣言したのを覚えています。周りに宣言できるぐらいの目標があれば、人間はいくらでも努力できます。今現在、ただ漠然と学生生活を送っているのなら、まずは本気で達成したい目標を探してみてもどうでしょうか？そして周りの意見を取り入れつつ、目標達成に向けた自分のスタイルを確立してみてください。



ロケット追尾アンテナの前で



H-IIA ロケット 34 号機打上